

第244回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成30年12月10日(月) 16:00~17:00

2 開催場所 エフエム栃木 3階 第2スタジオ

3 委員の出席
委員総数 6人
出席委員数 6人

(1) 出席委員の氏名
片山 貴之 (委員長)
小笠原 伸 (副委員長)
君島 理恵
青木 敬信
篠田 裕次
新井 啓泰

(2) 放送事業者側出席者
関根 房三 (代表取締役社長)
佐藤 望 (放送部長)
高賀茂 沙緒里 (放送部)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換
12月4日(火曜日)放送のワイド番組「B.E.A.T 火曜日」について、
試聴と意見交換をおこなった。

事業者：

2016年4月からスタートしたワイド番組。旬なモノ・旬なヒトに注目しながら、「遊び」「グルメ」「スポーツ」などの地域に根差したコンテンツを発信していく。

火曜B.E.A.Tの特色は、メインパーソナリティの2人が30代であること。黒後は4月から担当。次世代を担う30代リスナーにとって、同じ感覚で物事を紹介していく。

ラジオの楽しみ方として、「音」にフューチャーしたコーナーや、現代の若者に注目されている「フリースタイルラップ」の全国大会チャンピオンで佐野市出身のラッパー「DOTAMA」を起用したコーナーもスタートしました。

【 番 組 の 試 聴 】

委員： 須賀さんは声が明るく印象がよい。クロスケさんもリラックスしていて慣れてきている。
2人とも発音が綺麗で聴きやすかった。

委員： オープニングで流行語大賞の話をして、その後女子中学生・高校生の話題を話していたが、
ターゲットの年齢層は30代～50代なのであれば、学生の話はあえていらなかったのでは
ないか。

委員： 2人の会話の内容が全然かぶらないのがよかった。
話分けをちゃんとしていて、情報量も多かった。

委員： パーソナリティ2人を、若い人向けにという狙いで起用したのは納得。
他の曜日と比べると素人っぽいが、それがかえて親しみやすい印象を与えてくれる。

委員： 2人のやりとりが平坦なキャッチボールになってしまいがち。
これから意識して上達していただけたらと思う。

委員： 「違いのわかる男」は、生活の中での「音」にテーマをあてている点が興味深くおもしろかった。
こうやって音をじっくり聴く機会がないので、ラジオならではの演出で新鮮だった。

委員： 企画の狙いはよいが、2人のやりとりで話が終わってしまう。
リスナーとやりとりができる企画に展開すれば、より面白いのではないか。

委員： 「違いのわかる男」では、クロスケさんが声色を変えて演じているが、少し違和感がある。
キャラクターを演じる部分は、もう少し勉強しないと、聴いている側にイメージが浮かんで
こない。

委員： ばかばかしいことをやれるのがラジオの強みだと思う。
こういったコーナーが合間に入ってくことで、番組のアクセントになる。

委員： 音の違いは、集中して聴くことができる環境なら納得できるが、
車の運転中だと、よくわからないのではないか。

委員： DOTAMAさんのコーナーは、初回だったので説明が多く、気持を移入することが
できなかった。

委員： お題を出しての即興ラップは聴きごたえがあった。
今後どんな新しいことをしてくれるのか楽しみ。

委員： DOTAMAさんは地元出身なので、ラッパーとしても実力がある印象。
うまくいったら喋り手としても活躍できる。
特徴ある武器を持ったDOTAMAさんの今後の活躍に期待したい。

委員：クロスケさんはだいぶ上達した印象。以前気になっていた滑舌の「さ行」も改善されている。

委員：全体的には明るく、楽しく、テンポの良い番組。そういう流れを大切にしていると感じた。

委員：和気あいあいとした雰囲気で、こういった番組はレディオベリーの基幹的な番組だと感じた。
この明るいイメージは、局のカラーとして伝わっていきだろう。今後に期待したい。

(以上)

(2) その他

なし

(3) 次回開催日程について

回りの開催を1月21日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 12月30日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし